

3カ月前、整形外科で骨粗しょう症と診断されました。ビビアントという女性ホルモンの薬を飲んでいますが、副作用が心配です。良くなれば薬をやめられますか。食べ物でカルシウムを取るだけではだめなのでしょうか。(82歳、女性)

骨粗しょう症

KARTE カルテ Q & A



木村琢也医師

骨は、新しい骨を作る「骨形成」と古い骨を溶かす「骨吸収」を繰り返しています。骨の吸収が形成を上回り新陳代謝のバラ

る働きがありますが、閉経によって分泌が減ると骨吸収が進み、骨量が急激に下がります。老化や生活が影響して治療を要する状態となります。

骨粗しょう症が進むと長時間の立仕事などで背中や腰などに鈍い痛みを感じ、レントゲン検査でもろくなった背骨の骨折が

がんなどの女性器がんのリスク悪化は一切ありません。他には、カルシウムを骨に届ける役割の「ビタミンD」や、骨吸収を抑える「ビスホスホネート」という薬を処方することが多いです。より進行している場合は、骨吸収を阻害する薬を半年から1年ごとに投与する注

スクが減少することは調査で明らかです。具体的な治療法や期間は整形外科専門医と相談してください。(兵庫県整形外科医会、木村琢也 兵庫県市、きむらたくや整形外科クリニック院長)

◇第1、3、4日曜に掲載します。

治療継続で骨折リスク減少

ンスが崩れると、骨密度が低下します。そうして骨が折れやすくなっている状態を骨粗しょう症と呼びます。

治療を受けている患者の約9割は女性です。女性は更年期に女性ホルモン「エストロゲン」が急激に減少します。エストロゲンには骨粗しょう症を予防す

見つかることがあります。骨量測定検査で若い人と比べて骨密度が70%以下になると骨粗しょう症と診断されます。

「ビビアント」(一般名・バゼドキシフェン)という薬は、エストロゲンと同様の役割をしてくれます。この薬は骨にのみ作用するので、子宮頸がんや乳

射や、骨代謝を改善して骨強度を上げる「副甲状腺ホルモン」製剤を連日皮下注射する方法などがあります。

日頃からカルシウムをよく取り、適度に運動して予防してください。骨粗しょう症治療の最大の目的は骨折を防ぐことです。治療を続けた方が骨折のり